



# 最先端 IT・エレクトロニクス総合展 CEATEC JAPAN 2012 開催概要報告

アジア最大級の最先端 IT・エレクトロニクス総合展「CEATEC JAPAN 2012」が、千葉市・幕張メッセにおいて10月2日～6日の会期で開催されました。来場者総数は162,219名となりました。多くの来場者に最先端の IT・エレクトロニクスを体感いただく機会になったものと思います。

13回目を迎える今年は「Smart Innovation - 豊かな暮らしと社会の創造」をテーマに、624社／団体に出展いただきました。

IT・エレクトロニクスの技術革新が、我々の暮らしや社会全体を快適にスマート化することを実現するため、CEATEC JAPAN は日本発のスマートイノベーションを世界に向けて発信いたしました。



特に今回は、エネルギー関連の出展が極めて大きな比重を占めました。また、自動車メーカーの参加を得て「スマートモビリティイノベーション2012」ゾーンが設けられるなど、クルマ関連の出展が広いスペースを占めるようになりました。



これまでの電機・家電メーカーの範囲で行うエネルギー関連の展示から状況は大きく変わりました。日本の電機・家電業界のパラダイムが大きくシフトしたことが反映されたものと見られます。

今年の新たな動向の一つに、自動車とエレクトロニクスとの連携があげられます。特にホール1は、自動車関連の展示がフロアを埋め、EVの展示や自動運転EVが人気を集めました。さらにEVとクラウドの連携コンセプトを示した展示や、EVと住宅の協調型エネルギー管理の展示が多くの来場者の注目を集めました。



ライフ&ソサエティゾーンでは、多くの出展者がエネルギー関連に展示の主軸を移しましたが、映像・音響技術の進化も続いています。大型の4Kディスプレイを正面に据え、HDの先にある映像美を追求した展示が見られました。

ディスプレイ技術ではIGZO（酸化半導体）技術によるLCDが展示され、高精細で明るく消費電力の少ないディスプレイが可能であることが示されました。

また、最新タブレット端末やスマートフォンを利用した新しい技術やサービス、そしてユーザーインターフェースに関する研究成果が多数展示され人気を集めました。



キーテクノロジーステージでは、自動車重視の姿勢が鮮明になりました。また、エナジーハーベストを中心とした、創エネ・省エネやヘルスケアなどの新しい分野を支える部品が展示され、燃料電池にも新たな動きが見られました。



最終日の10月6日は入場料が無料となり、ジュニア&キッズ電子工作教室やロボットプログラミング体験教室には今年も多くのヤング・エンジニアが訪れ、行列ができるほどの盛況さでした。





CEATEC JAPAN 2012では、本年の開催テーマである「Smart Innovation - 豊かな暮らしと社会の創造」の下に『CEATEC AWARD 2012』を実施し、出展された展示の中から特に優れたイノベーション力を発揮した技術・製品・サービス・システムなどを表彰いたしました。

今年から新たに総務大臣賞と経済産業大臣賞が設けられ、各部門のグランプリとともに以下の会社が受賞されました。

### 総務大臣賞

「食・農クラウド Akisai (秋彩)」  
富士通株式会社

### 経済産業大臣賞

「酸化物半導体「IGZO」がもたらす未来」  
シャープ株式会社

### プロダクツ&サービス部門

「84インチ4KTV」  
株式会社東芝

### ネットワークテクノロジー部門

「緊急公助ワイヤレスソリューション」  
NEC

### 次世代イノベーション・キーテクノロジー部門

「CIGS イメージセンサ」  
ローム株式会社

### スマート・キーテクノロジー部門

「世界最小！自動車搭載用 SiC IPM  
(Intelligent Power Module)」  
ローム株式会社

### 審査委員特別賞

「84V 型4K 対応液晶テレビ」  
ソニー株式会社/ソニーマーケティング株式会社

### メディア投票部門

「Smart INSECT」  
トヨタ自動車株式会社



CEATEC JAPAN 2012の詳細は公式サイト  
トでご覧いただけます。

<http://www.ceatec.com/2012/ja/index.html>